

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300602		
法人名	社会福祉法人 祐寿会		
事業所名	グループホームよしき		
所在地	山口県山口市吉敷佐畑四丁目5番24号		
自己評価作成日	令和3年12月29日	評価結果市町受理日	令和4年11月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、コロナ禍で外出制限、面会規制などを行っており、感染の持ち込みをしないよう、職員一同尽力しています。その中で、テレビ電話による面会や、ドライブなどの気分転換を図っている。利用者様目線で物事を進めていき、それぞれの嗜好に合ったレクリエーションなどを行っている。食事の前には口腔体操や歌を唄ったりして嚥下や、むせ、誤嚥防止に努めている。上、下肢の運動や体操を行い下肢筋肉を維持できるように支援している。午後はトランプ、脳トレ、縫い物、ぬり絵などをして過ごしていただき、気分転換を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、毎月のケアカンファレンスで理念に沿ったケアを行っているかどうかを話し合わせ、利用者一人ひとりの思いを大切にしたいその人らしい生活が実現できるよう支援されています。対応の難しいケースでは、職員間で何度も話し合いを繰り返され、行政にも相談しながら対応されています。施設での入浴が困難な利用者に対しては、家族の協力を得て自宅での入浴を取り入れられたり、事業所の浴室を温泉施設に見立ててチケットを利用した入浴を進めておられるなど、利用者のこだわりを大切にされ、工夫を凝らして支援しておられます。事業所を含めた拠点施設全体での支援体制の連携では、定期的に関催される委員会活動(身体拘束廃止、褥瘡対策、環境整備、感染症対策、給食、事故対策)に参加され、各部署の事例報告や全体研修で学ぶことにより、職員の資質向上が図られています。災害対策では、拠点施設全体で自衛消防団を結成されており、普段からの防災訓練による非常時に対する対応の他、川の氾濫が心配された時には、他部署の職員の協力を得て自主的に避難されるなど、利用者の安心・安全体制の保持が図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない ○ 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作成した基本理念を常に意識して業務に取り組むようホールに大きく掲示して共有しながらチームケアとして実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事務所内に掲示している。職員は毎月のケアカンファレンス時に理念に沿ったケアを行っているかを話し合い、利用者一人ひとりの思いを大切に、その人らしい生活を支援できるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常は地域の福祉委員、民生委員さんが定期的に来苑され、お茶会や季節の行事に参加されたり、一緒に作品作りをして交流を深めている。また、近くの小学生や地域のボランティアさんにも来て頂き交流しているが今年もコロナ関係で開催できていない。	法人全体で自治会に加入している。自治会が発行する新聞や地域交流センターから不定期に送られてくるメールで地域の様々な情報を得ている。今年もコロナ禍が続き、例年参加していた地域の行事もなくなり、福祉員や民生委員の定期的な訪問やボランティアの来訪、専門学校生や高校生の福祉実習などの受け入れを中止しているため、地域の人との交流が出来ていない。近隣の人とも、遠くからの挨拶程度であり、これからは、コロナ禍における地域との交流の方法が課題となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍で地域推進会議等行われておらず、地域との交流が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年、各自で自己評価し、理解し意識統一するように取り組んでいる。また外部評価で指摘された項目に対し皆でGH会議で話し合い改善に取り組んでいる。	主任が職員に評価の意義について説明している。職員に前回の自己評価の用紙を回覧して、変更点を記入してもらい、苑長、主任、副主任が話し合っまとめている。評価を通して、入浴や更衣を嫌がる利用者への対応を課題と捉え、職員間で話し合いながら対応を検討している。昨年度の外部評価をうけて、介護度の高い利用者に対して全職員が介護への対応力や実践力を身につける事を目標達成計画にあげ、研修会や看護師を講師とした勉強会に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や現状を報告し情報、意見交換をし問題点などを話し合いサービスの向上に活かしているが今年はコロナ関係で出来ていない。文書にて報告のみになっている	会議は、2カ月に1回開催している。この1年間は、新型コロナ感染予防対策として、全会議を書面で開催し、会議のメンバーには、資料(管理者挨拶、利用者の状況報告、行事報告、感染対策の状況、避難訓練の報告等)を送付している。メンバーからの意見をサービス向上に活かす機会としては、十分とはいえない。	・メンバーからの意見を活かす工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の現状や直面している課題の解決に向けて相談したり助言を頂いている。感染予防の観点から、電話での助言をいただいている。	市担当者とは、電話や直接出向いて書類の手続きを行ったり、感染対策やケアに関する助言を得るなど、協力関係を築いている。市主催のウェブ会議で開催しているサービス提供協議会には、毎月参加して、情報交換している。地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議時に情報交換するなど、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加し、身体拘束委員より、身体拘束の法律や、方法などを勉強している。また、スピーチロックにも気を付けながら抑圧感のない暮らしの支援ができるよう環境に配慮したり、声掛けに気を付けてGH会議などで確認しながらケアにあたっている。	職員は、拠点内で行っている年2回の研修や、身体拘束委員会と高齢者虐待防止委員会に参加して、身体拘束や虐待の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックに気づいた時は、主任や副主任が注意したり、毎月のグループホーム会議や勉強会で職員同士が話し合っている。外出したい利用者がいる場合は、職員と一緒に敷地内を散歩したり、声かけしたり、おやつを勧めるなどして気分転換を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や苑内研修に参加して虐待防止の学習をしている。入居者の日常の様子や内出血など観察し記録に残し虐待がないように注意している。正しい声掛けをして虐待に繋がらないように気を付けていく。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでいる。今は利用している方はいない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居時にご家族に十分な説明を行い理解納得の上で署名していただいている。改定の際は口頭や書面でも説明しご理解をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受付体制を説明している。また、玄関にご意見箱を設置して意見や要望を伝えやすいようにしている。疑問点は随時、説明している。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に契約時に説明している。契約書に職員苦情受付要領を記載し、利用者、家族のすべての言葉に耳を傾ける姿勢を示している。玄関には、意見箱を設置している。家族からは、面会時や電話、手紙で家族の意見や要望を聞いている。毎月行事に参加している利用者の写真を掲載した事業所便りを家族に送付し、面会時には日頃の様子を伝えて、家族が意見を言いやすいように工夫している。意見や要望は、介護記録に記載して職員間で共有している。家族からは、寝たきりの利用者との会話の希望があり、テレビ電話で対応するなど、その都度職員間で話し合っ対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や勉強会等で事業計画作成や進捗について聞く機会を設け意見を聞いている。	管理者や主任は、月1回のグループホーム会議や委員会活動(身体拘束廃止、褥瘡対策、環境整備、感染症対策、給食、事故対策)、係業務(新聞、行事、レクリエーションなど)の中で職員からの意見や要望を聞いている他、日頃から職員に声をかけて、話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは、入浴を拒否する利用者の入浴方法の提案や老朽化に伴う新しい車椅子の購入希望があり、意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働法関係や内部諸規定に基づいて行っている。コロナで職員が疲弊しないように特別休暇を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や苑内研修会に参加させてレベルアップに努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は、副主任が認知症実践者研修を、計画作成担当者が介護支援専門員の更新研修を受講している。拠点内研修は、食中毒予防、感染対策・嘔吐物処理方法、ヒヤリハット報告・内容等をテーマに開催している。内部研修は、年間計画をたて、毎月職員が交替で講師となって、接遇、感染症、緊急時対応と介護技術、信頼関係、認知症と精神疾患、記録とケアプラン、個人情報とプライバシーをテーマに計画的に実施している。新人職員は、一日の法人研終了後、日々の業務の中で主任や先輩職員から介護の知識や技術を学べるように支援している。法人では介護福祉士や介護支援専門員の資格取得の支援に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を通じて交流を進めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族やケアマネージャーから本人の生活歴や親しんでこられた事、日常の様子を聞き本人の思いや会話や表情を見ながら安心されるケアに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、日常の様子や要望、不安なことを聞いて関係づくりに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で本人の様子やご家族の話聞きその時に必要なサービスを職員間で共有しケアプランを作成し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の様子を見ながら洗濯干しや洗濯たみ、テーブル拭きや配膳など出来ることはやっていただき共に暮らしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの関係で家族での買い物や、外泊などが出来なくなっている。面会制限がある為、テレビ電話を使用し、少しでも繋がりを継続している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限の為、馴染みの人、友人やご家族と手紙のやり取りをしている方もおられる。	コロナの感染状況に応じて、拠点施設のホール内や事業所の窓越し、携帯電話のビデオ通話で家族と面会したり、年賀状や手紙、電話での交流を支援している。家族の協力を得て、かかりつけ医や他科の受診に出かけたり、事業所での入浴が困難な利用者が自宅で入浴するために外出するなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を同じテーブルにし会話や脳トレやトランプ、歌など一緒に楽しんで安心して暮らせるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた入居者でもご家族に言えば様子を聞いたり、同施設内に行かれた方には様子を見に行ったり、声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中や、本人の行動から思いを把握している。また、意思疎通の困難な方には表情や行動を見て思いをくみ取るよう努めている。	入居時には、センター方式のシートを活用して、利用者や家族から長年なじんだ習慣や好み、現在の状況などを聞き取り、思いの把握に努めている。日々の関わりの中での利用者の行動や言葉、表情、それに対する職員のケアのヒントやアイディアを介護記録に記録して、思いの把握に努めている。把握が困難な場合は、家族に聞いたり、表情や行動から思いを汲み取るように努め、職員間で話し合っ、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から聞いた情報や日常会話の中で本人から聞いて把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態を観察、把握し、レクリエーションや日常の活動の中で有する力を発揮していただいている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のGH会議でカンファレンスを行い職員間で話し合っている。近況をご家族に伝え要望や意見を聞いて現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と担当職員を中心に、3ヶ月に1回カンファレンスを開催し、本人や家族の思い、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。介護記録に利用者の状況や支援内容を記載し、目標に沿った支援になっているかを確認している。3ヶ月毎にモニタリングを実施して計画の見直しをしている。利用者の状態が変化した時はその都度見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の24時間シートに実践チェックや気づき、工夫を記録し職員間で共有し担当がまとめ3ヶ月ごとの介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況その時々ニーズに対し受診や日常の支援に取り組んでいる。尚、結婚式出席や外泊の希望がある場合は、感染予防を徹底してもらい、希望にこたえている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生日のケーキ購入や、他の娯楽に使用する場合は、地域の店舗を利用しているが、コロナ禍の為入居者は関わりを持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は家族の希望を大切にしかかりつけ医を選んでいただいている。また事業所の看護師がかかりつけ医と連絡を取り合い緊急時は様子を伝え適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>事業所の協力医療機関の他、本人、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関の受診には看護師が付き添い、他のかかりつけ医や他科受診は、家族の協力を得て、事業所が支援している。歯科は、必要時に訪問診療を依頼している。受診結果は、連絡ノートや介護記録に記録して職員間で共有し、看護師が電話で家族に報告している。緊急時や夜間は、看護師が協力医療機関やかかりつけ医等と連携し、利用者が適切な医療が受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職は日中夜間入居者の体調変化に気づいた際は、看護師に報告し適切な受診につなげている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の場合は情報提供書で本人の状態を知らせている。入院中も医療機関と情報交換を行い、退院後は情報をいただいている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合は早めにご家族に伝えている。事業所で出来る事出来ない事を説明しながら移設も含め今後の対応を話している。また、職員間でもどこまで支援できるか話し合っている。</p>	<p>重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と話し合い、本人や家族の希望に添って、法人の関連施設や他施設、医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。事業所での生活を望む利用者に対しては、何処まで支援出来るか職員間で対応を話し合っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	カンファレンスで個々の状態を話し合い、ケアプランを作成したり連絡ノートで情報交換し、事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備え緊急時対応マニュアル作成し勉強会で学んでいる。	事例が生じた場合は、その日勤務の職員で話し合い、ヒヤリハット報告書や事故報告書に、状況、対応、原因、再発防止策、考察を記入して、回覧すると共に、申し送り時にも伝えている。月1回のグループホーム会議で再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。拠点施設の「事故対策委員会」には、事業所の委員が参加し、事例を報告している。事故防止に備えて拠点でのヒヤリハットの研修に参加したり、内部研修で看護師による意識消失時の対応など実践を兼ねた研修を実施している。緊急時対応マニュアルを作成して、事故発生時に備えている。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会、火災訓練2回/年、風水害訓練1回/年行い、避難方法を習得できるよう努めている。火災の場合は地域の方の応援や協力体制を築いている。今年は大雨で8月と9月に2回デイサービスに避難して他部署とも連携をとっている。	法人全体で自衛消防団を結成しており、この1年は昼夜間想定火災訓練を2回、風水害の訓練を1回行い、利用者も参加して通報、避難訓練、避難経路の確認などを行っている。消防署とは電話での通報訓練を、市の防災担当者とはFAXでの受信確認を行っている。昨年の8月と9月には、近くの川の氾濫の恐れのため、拠点施設の他部署の職員の協力を得て、自主的に法人デイサービスに避難し、一晩を過ごしている。緊急連絡網には自治会長が加入しており、地域との協力体制を築いている。非常時に備えて、米などの非常食やカセットコンロ等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に応じて入居者が不快な思いをしない程度の親しみやすい言葉を使っているが基本は人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけている。	職員は内部研修で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応をしている。不適切なケアに気づいた時には、主任や副主任が注意したり、毎月のグループホーム会議で話し合っている。個人情報適切に管理され、守秘義務は徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個々の表情を観察したり会話や行動から思いをくみ取り自己決定の支援をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はあるが、個々のペースを大切に希望に添った支援をするようにしている。散歩等の希望にも応じている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	令和3年3月より食事提供が特養厨房に変わり、出来た物を配膳するようになった。月1回程度クッキングの日を設けて調理し食べることを楽しんでいただけているよう支援している。	法人の管理栄養士が栄養バランスのとれた献立をたて、三食とも法人の厨房で調理したものを配膳している。毎月の給食会議に職員が参加して利用者の希望を伝えている。食べる前には、口腔体操を行い、静かなBGM音楽を流したり、キザミ食など食べやすい形態や食器を工夫して提供している。利用者は、お盆拭き、テーブル拭き、お茶くみ、食器洗い、下膳などできることを職員と一緒にやっている。季節の行事食(おせち料理、雑煮、チラシ寿司、土用のウナギ、サンマ、年越しそばなど)や毎月1日の赤飯、毎月の誕生日食とケーキの他、月1回はクッキングの日と称して、皆でおやつ(プリン、白玉団子、ぜんざい、ホットケーキ、どら焼き)を作るなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常は同施設地内の施設の管理栄養士がバランスの取れた献立を立てている。1日の水分摂取量は1日通して確保できるように提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前は緑茶でうがいをしていただき、食後は口腔ケアを支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿や排便の様子を一人ひとり記録し排泄パターンを把握して失禁を減らすように支援している。	24時間シートを活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮した声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。紙パンツやパットの使用時には職員間で利用の根拠を話し合い、家族の了解を得て使用している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努め、食事量の管理などで便秘を予防している。また排便状況を確認し、便秘薬の確認をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆったりと気持ちよく楽しめるように週に2回～3回の入浴を支援している。その日の体調や気分によって時間帯を変更し対応している。苑内の入浴を拒否される方には、ご家族にも協力していただき、自宅で入浴支援をしていただいている。	入浴は毎日13時30分から15時までの間可能で、週に2回から3回は入浴出来るように支援しているが、その日の利用者の状況に応じて午前中に入浴する事もある。順番や湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯など利用者の希望に添って、ゆったりくつろいだ入浴となるよう支援している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、部分浴、シャワー浴、ドライシャンプーなどの支援をしている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず時間をずらしたり、職員の交替、言葉かけの工夫をして対応している他、家族の協力を得て自宅で入浴したり、浴室を温泉施設と伝え、チケットを作って入浴を進めるなど、職員間で話し合っ対応を工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションなどにお誘いして活動的に過ごしていただき夜間の良眠につなげている。また、体調やその日の気分に合わせて自由に休息して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より薬の副作用や用法、用量について指示を受け共有している。日々の服薬支援において症状の変化の観察、記録をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からしてきた洗濯干しや洗濯たたみ、得意な貼り絵やぬり絵、脳トレをしたり、時にはクッキングの日をもうけ調理をしたりして活躍の場を提供し、楽しんだり活躍する場を作るように努めている。	テレビ(相撲、歌番組、スポーツなど)やDVD(利用者が参加した行事)の視聴、ラジオを聴く、本、雑誌、新聞を読む、写真集、折り紙、ぬり絵、貼り絵、切り絵、季節の飾りづくり、習字、歌、いろはカルタ、トランプ、坊主めくり、テレビ体操、リハビリ体操、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、なぞなぞ、しりとり、ゲーム(犬棒カルタ、絵合わせ、ペットボトルの蓋でゲーム)、脳トレ(間違い探し)、ドライブ、運動会、誕生日会、おやつ作り、季節の行事などを楽しんで気分転換を図っている。掃除、カーテンの開閉、枕カバーやシーツ交換、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、生け花、花瓶の水替え、食事の号令、お盆拭き、テーブル拭き、お茶くみ、食器洗い、下膳など活躍出来る場面づくりを行い、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲のドライブなどの外出支援をしている。その時期の花を見に行ったり季節感を楽しんでもらっている。気候の良い時期には歩いて行ける場所にある東屋まで散歩をしている。	施設周辺の散歩や中庭での外気浴、日光浴、鯉を観に行く、季節の花見(梅、桜、つつじ、紅葉など)、車窓からのドライブなど、利用者の希望とその日の体調、天候を考慮し外出が出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はない。実際にお金を使われる事もない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って電話を掛けたい方には取り次いだり、手紙を書かれない方には職員が預かり投函している。携帯電話を持たれている方は自由に電話ができる支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には花を植え、季節を感じて頂いている。また、施設内の壁や玄関には入居者の手作りの貼り絵や行事などの写真を貼って楽しんでいただいている。	玄関には、季節の飾り物を置き、中庭のプランターには季節の花を植えて、季節感が感じられるよう工夫している。ホールはガラス窓が多く、中庭から自然光が差し込んで明るい。テレビの前には大きなソファが置いてあり、テーブルやイスを配置して利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。キッチンからは調理の音や匂いがして生活感を感じる事ができる。壁面には行事に参加する利用者の写真や季節の共同作品、習字、年賀状、絵馬、理念などを掲示している。温度や湿度、換気、清潔に配慮し、感染対策を徹底して、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になられることは難しいが、一人になりたい時は自由に自室に戻られている。各テーブルは気の合った方同士会話やレクリエーションが楽しめるように支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の思いを尊重し馴染みの物やテレビやご家族の写真を持ってこられ楽しまれている。	居室にはベッド、ダンス、机、イス、小テーブル、テレビ、時計、衣装かけスタンド、ぬいぐるみ、整容道具など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダー、色紙などを飾って本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には顔写真やお名前を記したり、共同トイレには大きな字で張り紙をしたりして安心安全な環境作りに努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームよしき

作成日: 令和 3 年 12 月 29 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者の中に、入浴拒否される方がいらっしゃる。声掛け、時間帯をずらして入浴される場合もある。グループホーム内では全く入浴されない利用者のご家族に対応して頂き、入浴されている。「自分の家でしか入らない」と言われる。	入浴する事が気持ち良いと感じて頂けるよう上手な声かけ等を行い、清潔保持に努めていく。	浴室の改装工事を行い、浴室の雰囲気を向上させ、利用者に入りたいという気持ちにし、気持ちよく入浴して頂くよう支援していきたいと思う。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。